

膨らむ融資

「規制が必要」

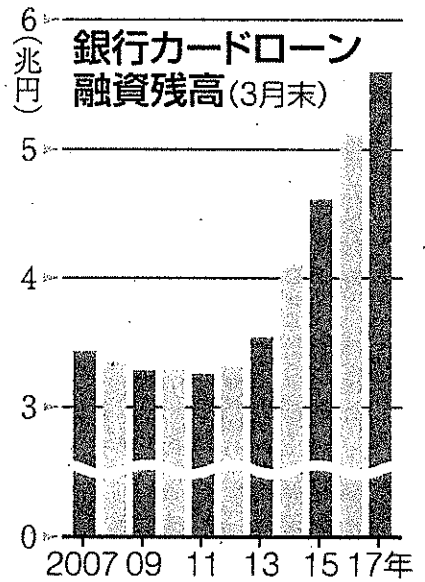
銀行によるカードローン融資が近年、急増している。貸出残高は二〇〇四年以降、三兆円台で推移していたが、一四年三月に四兆円を突破し、今や六兆円に迫る勢い。銀行は「成長が見込める」など力を入れるが、かつての消費者金融による「多重債務」問題が再燃しないか心配だ。規制強化の必要はないのか。

(木村留美)

先月、日本銀行が発表した統計によると、一六年度末(今年三月末時点)の銀行カードローン融資残高の総額は約五兆六千億円(前年度同期比9・4%増)。金融庁によると、同時期の消費者金融の貸付残高総額は約二兆四千億円だったから、二倍以上の規模だ。

日銀の統計によると、銀行カードローン融資残高は〇〇年以降、ずっと五兆円未満で推移していたが、一六年三月に五兆円を突破した。ここ五年ほどは毎年10%近い伸び率で推移している。

急増している要因の一つが、消費者金融と比べて緩い規制だ。貸



「銀行カードローン」5兆6000億円

銀行カードローンによって増えてきていると感じる」と話す。

銀行カードローンは、住宅や車の購入といった借入れの際の用途の限定はなく、一般的には不動産などの担保設定も不要だ。金利は利息制限法などの制限がある。融資額によって上限は異なるが最大で20%。実際の金利は、18%程度の消費者金融よりやや低い、15%程度のものが多いようだ。

それでも1%前後の住宅ローンと比べると、極めて高い。日銀のマイナズ金利政策によって金利収入を得にくくなっている中で、銀行にとっては貴重な収入源といえる。「リスクを負わずに貸出先を見つかる」ことが難しくなっており、銀行はカードローン事業に力を入れている」(三上氏)

力を入れる指標となるのが、テレビCMだろう。三上氏は「テレビCMが増えてきていると感じる」と言う。「消費者金融には心理的な抵抗感を覚えても、銀行となると薄まる。だが、実態としては銀行も消費者金融も変わらぬ」と警告する。「融資の際、グループ内の消費者金融を『保証人』に設定し、審査や返済の取り立て業務を、消費者金融に任せる銀行もある」という。

最高裁の統計によると、一六年の個人の自己破産申し立ては約六万四千件。十三年ぶりに前年を上回り、銀行カードローンの影響を指摘する声も上がる。麻生太郎金融担当相も三月二十八日の参院決算委員会で、銀行カードローンについて「どんどんエスカレートする状況にあるのではないかと危惧している」と述べた。

全国銀行協会(全銀協)は三月、広告の自主規制や審査体制の強化といった対策を発表したが、銀行によっては自主的に実施している年収三分の一以下といった融資の「総量規制」、複数行からの借入れ規制なども検討すべきではないか。三上氏は「銀行の自主規制で不十分なら、国が規制を行うべきだ」と主張している。

多重債務増えない?